

事業者における放課後等デイサービス自己評価結果 公表（2022年2月10日）

北海道クリスチャンセンター福祉会 家庭福祉相談室 放課後等デイサービスらるご

実施日：2021年12月

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	20%	80%		移転により環境がかなり改善された	学習プログラムについては、現状の部屋の広さでは7、8名の児童利用が限界である。
	2	職員の配置数は適切であるか	40%	40%	20%	法定配置数の中で個とグループを組み合わせる最大限の工夫をしている。	業務の進め方の効率化を行い、より安定した職務実施ができるようにしていく。
	3	事業所の設備等について、安全への配慮が適切になされているか	60%	40%		子ども一人ではエレベーターに乗らないとルール化している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	20%	60%	20%		PDCAサイクル実施のゆとりを得る為にも、業務がより効率的に進められるよう工夫する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	80%	20%			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100%				2018年度6月から公表
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		20%	60%	記入なし=1	検討課題
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		60%	40%		オンライン活用など、研修の受けやすい環境を確保していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	80%	20%			
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか			100%	個人の状況に合わせて、他機関の結果を参考にすることが多い。	適切なものを検討する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	60%	40%		立案はリーダーが行い話し合い時に意見を聞き取り入れている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%			慣れたプログラムの中に必ず新しいプランを1、2くみ込む。	利用する子供の年齢幅が大きくなってきたこともあり、状況に合わせてプログラムの内容や流れを変更している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	80%	20%			

適切な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%			常に日案を作り書面化しその日の打ち合わせを行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	100%			毎回振り返りを行なっている。全体での振り返りの時間を設定した。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	80%	20%		毎回個人記録をつけている	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	60%	40%		半年に1回見直している	学期や学年末にこだわらず、業務過多になる時期を避けて計画を見直している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	20%	80%			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	100%			対象児の状況を一番把握している者が出席している。	日程調整ができずに不参加になることもあるが、その場合は保護者の了承を得て資料を提出している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	40%	60%		全ての学校で情報交換は行っていないが、必要に応じて情報収集をしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか				今のところ対象児がいない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	100%			保護者の許可を得て、児発から情報ももらっている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	40%			記入なし=3 今年度は該当者なし	2020年度卒業の高3の生徒については支援内容の情報を保護者に提供した。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	20%	60%	20%	今年度は研修に出席できなかった。	助言や連携を今後検討する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			100%		コロナ禍で実施できていない。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか		60%	40%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%			毎回の引き継ぎを利用して行っている。 得られた情報は来室記録に記入し、共通理解を図っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	40%	40%	20%	個々の要請に合わせて具体的な助言等を行っている。	

保護者への説明責任	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%			契約時に面談、利用者負担の変更等を書面で伝えている。今年度は重要事項の変更を全ての利用者家庭に周知した。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%			面談、電話等で丁寧に対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	20%	40%	40%	コロナ禍で集まることができなかった。	社会情勢も見ながら今後検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%			口頭や文書でスタッフに周知して、迅速に対応している。	
	34	定期的な会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%			毎月通信を発行している。ホームページに掲載している。	
	35	個人情報に十分注意しているか	80%	20%		同意書をとっている。保護者だけに伝えたい時は、引き継ぎ時に直接手渡す。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	80%	20%		排泄介助が必要な子には保護者の同意を得ている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		20%	80%		戸建てからビルに移転したために重要度は下がった。ビル内の他テナント従業員から理解を得ている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	80%	20%		防災マニュアルを新たに作成した。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%			年に1度は行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	60%	20%	20%	年に一度の学習会を確保している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	40%	20%	40%	基本的に身体拘束は行わない。唾を吐くなどの不適応行動をとった場合、別室に移動することをあらかじめ保護者に説明する。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	60%	20%	20%	対応について保護者に確認している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%			振り返り時に共有。文書化して事業所内で回覧している。	